
笛川ブロック交流研究会

『小中の連携を深めるとともに、 地域の様子や子どもたちの実態を知り、 指導にいかしていこう』

I 主題設定の理由

小中の連携を深めることは、地域の教育に必要なことである。本ブロックでは笛川中学校区で学ぶ児童・生徒たちをともに教育していくという立場から、児童・生徒の生活の基盤である地域について理解を深め、地域の自然・歴史・文化・産業などについて、臨地研修や体験活動などを行っていく。また、授業に役立つ学習会や小学校の授業参観を計画・実践している。こうした活動を通し、児童・生徒への理解を深め、教育上の課題を共有し、指導に生かしていく。

II 研究の内容

1. 第1回ブロック交流会（臨地研修）

8月5日（金）13：30～ 場所 牧二小，牧三小地区

地域の文化を知り，教師間の交流を図る

牧二小学区「こんにゃくづくり」 講師：岡久 様

牧三小学区「洞雲寺・鳥谷観音見学」講師：牧丘郷土文化館長 古明地登吉 様

2. 第2回ブロック交流会（実技講習・講演会）

11月16日（水）15：30～ 場所：三富小学校

「野外観察の考え方と方法」

「身近な材料を使ったリースづくり」

講師：湯本光子先生（三富小学校）

3. 第3回ブロック交流会（小学校の授業参観・交流会・情報交換会）

1月18日（水）14：00～ 場所：三富小学校

第1・2学年 体育科 「みんなで動こう 3B体操」

地域の方との交流も兼ねて実施。地域の愛育会から数名参加して一緒に3B体操を楽しんだ。

（社）日本3B体操協会公認指導士：関敬子，辻美恵子

1年担任：竹川由美子 2年担任：山田勝博

第3学年 国語科 「かるた」

3年担任：志村克人 特別支援担任：八巻恵子

第4学年 理科 「物のあたままり方」

4年担任：湯本光子

第5・6学年 総合的な学習の時間「笛川中学校のことを知ろう」

笛川中学校と三富小学校で合同授業。小中連携の授業のあり方をさぐる試み。中学生が小学生に笛川中のことを説明した。

プレゼンター：笛川中学校新児童会執行部8名

笛川中学校生徒会主任：竹川美和

三富小5年担任：野尻政彦 6年担任：平塚すみり

Ⅲ 成果と課題

1. 成果

- 子ども達が居住する地域について、教師が体験したり見聞きしたりすることは、その行動自体が子ども達に影響を与えるし、子ども達との関わりづくりにもなる。地域の中に教師の姿が見えるということは、大変よいことであった。
- 1回目のブロック交流での牧二学区の「こんにやく作り」では、講師の方の地域に対する思いにふれることができ、有意義だった。牧三学区の「鳥谷観音の見学」では、案内してもらえなければ、見ることのできない観音様を見ることができ、とてもよかった。両者とも、自然豊かな地域の環境を学ぶことができ、何かに活かされればよい。
- 第3回のブロック交流では、一校の授業参観でよかった。同じ地域に勤務する教職員が、つながりを持つことができた。特に、小中連携の視点から成果があった。
- どの内容も充実したものであり、とてもよかった。小中の連携の意義と、この笛川中ブロックの地域性を学ぶことができ、有意義なものであった。
- 同じ中学校区の小学校の児童の様子を見ることで、自校の子どもたちの様子や教育実践を振り返ったり刺激になったり、他の学校や子どもたちの様子も知ることができるなど、得る物は多かった。
- 小中連携は、今後も意欲的に取り組み、意見交換をしていかなければと思った。お互いの様子、よいところや改善点を見つけ合い、共有していける貴重な機会だった。

2. 課題

- ▲毎年、交流会での話し合いの内容が同じであり、なかなか先に進まない感がある。
「小中でこういう取り組みができた。」という実践が出来ればよいと思う。
- ▲夏休みのブロック研の臨地研修は、地域を知る上で良いが、何度も実施していると内容や見学する場所を見つけるのが難しい。
- ▲小中連携をブロック研究の中でどうつくっていけばよいかがよくわからない。最初に「こういうことをやっていきましょう。」（目標）ということ全体を決めて取り組み、3回目の時にそれぞれの学校（個人）での取り組みを交流し合い、子どもたちの変容を確認できる取り組みが小中の連携となるのではないか。

（ブロック長 竹川由美子）